

# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2010.11.5 No. 89 連絡先 FAX 042-555-1911



## 世界一危険な普天間基地の撤去を！海にも陸にも新基地建設NO！



名護市辺野古では新基地反対の座り込みが続けられ、陸上案にも反対とキャンプ・シュワブのフェンス沿いで毎週木曜日朝の座り込みが行われています。11月4日で33回目です（写真）。

「菅さんは（新基地建設を）あきらめないでやると言った。政府があきらめないのだったら、こっちも男らしく彼らがあきらめるまで運動しようという決意を新たにしたわけ。」嘉陽宗義さん（88歳）の話（平和新聞10月15日号）が胸に響きます。

### 稲嶺名護市長が大浦湾を海上から視察



11月3日、稲嶺名護市長ら約20人は、貴重な生き物が共生している辺野古崎、大浦湾を海上から視察しました。同市の執行部が同海域を視察するのは初めて。案内は、絶滅危惧種のジュゴンの食（は）み跡やアオサンゴの大群集など貴重種を見つけている環境保護チームのダイバーです。大浦湾の豊かさを実感した稲嶺市長（写真右）は「自然も、生活そのものも破壊する埋立で、新基地をつくることを許してはならない」と決意を表明しました。

この海域の生態系保全をめぐっては、先月、名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）でも注目されました。知事選の争点にも急浮上しています。

イハ予定候補は、新基地建設による辺野古・大浦湾の「埋立は認めない」との立場を鮮明にし、「生物多様性保全条例」を制定、「琉球諸島の自然を守り自然遺産登録をめざす」としています。一方、仲井真知事は埋め立て拒否の言明をさけています。（写真提供：大西照雄氏）

### 「節目の年にふさわしい闘いを！沖縄県知事選勝利で日本は変わる！」

「今年は、安保改定50年という節目の年。しかし、もう11月、60年安保のような闘いは展開できないと思っているかもしれない。が、東京新聞は8月15日の社説で『歴史は沖縄から変わる』と書いた。沖縄では1月、新基地反対の名護市長を誕生させ、4月には9万人を超える大集会を成功させた。11月28日、沖縄知事選で勝利したら日本の歴史は大きく変わる。節目にふさわしく私たちが共に闘おう。」とある集会で熱く語った畑田重夫さん。同感です。

### 横田基地 危険地域に学校 「米国では禁止」と吉田都議が追及

26日の都議会総務委員会で日本共産党の吉田信夫都議は「米軍横田基地の周辺では、米国内では公共施設などの設置を禁止している危険地域に学校や高齢者施設などが多数存在している」とパネルで実態を示しながら都の対応をただしました。米本国では基地周辺の安全対策として、土地利用禁止区域、事故危険区域を定めています。吉田都議は「アメリカ国内だと、基地を置くことができないのは明らか」と、都独自の实態把握と調査・研究、国に資料提出を要求することなどを求めました。また、都が公式には基地の整理・縮小・返還を掲げながら、基地強化、自衛隊との一体化に反対せず、事実上返還を求めている知事の態度を批判しました。

## 10.29都民生活要求大行動 平和要求より一部抜粋 回答は知事部局 (No. 89 裏面)



横田基地をはじめとする米軍施設の撤去の具体的施策を  
回答 国への提案要求の重点事項として、整理・縮小・返還が促進されるよう必要な措置をとることを求めている。

### 航空総隊司令部等の移転等の基地強化に反対を

回答 在日米軍と自衛隊との連携により、わが国の防衛力の強化が図られるものと認識している。(上記と矛盾)

横田基地外居住の米兵が増えている。都は実態を把握を

回答 基地外居住の情報は防衛省が公開。<http://www.mod.go.jp/j.press/news/2010/07/16c.html>  
武蔵村山市で起きた米兵の子の事件に関して、地位協定の改定を求めることには前向き答弁。

### 在日米軍司令官が交代、バートン・フィールド中將が就任

横田基地の在日米軍司令官兼第5空軍司令官が交代しました。数種の報道から要約します。

10月25日、横田基地で在日米軍司令官の交代式が行われ、エドワード・ライス空軍中將に代わり、バートン・フィールド空軍中將が就任しました。式にはルース駐日米大使、ウィラード米太平洋軍司令官、ノース米太平洋空軍司令官以下、米4軍将兵と家族ら、日本政府から山花郁夫外務大臣政務官、折木統幕長、外衛空幕長らが出席しました。

ウィラード米太平洋軍司令官(海軍大將)は、「日本に前方展開する米4軍の初動部隊が東アジアの地域の安全に寄与している。その指揮官には米国でも最高の指導者が配置される」とフィールド新旧司令官を紹介しました。

フィールド中將は統合参謀本部の戦略企画政策副部長を経て、アフガニスタン・パキスタン担当の米特別代表上級軍事顧問を務めていました。戦闘機パイロット出身。F16、F22などで3400時間の飛行時間を持ち、これまで韓国、ドイツ、イラクなどでも勤務していました。

2008年2月から在日米軍司令官を務めたライス中將は、ランドルフ空軍基地(テキサス州)の米空軍航空教育訓練軍団司令官に就任します。

### 核を求めた日本・秘密外交を追跡 極秘報告書 10月3日 NHK放映 話題に (2)

#### エゴン・バール氏(82歳)の話 (つづき)

日本には核を持つ能力がある。憲法9条があるので原子力の炉を手に入れられる。原子炉があるので核物質が抽出できる。このことを聞いて私は激しく動揺した。日本は短期間に核兵器を持てる。私は日本が核兵器を持たないよう願った。

#### 「日本の動き」の解説

既に核武装していた5ヶ国は、他の国に対して核武装をすることのないようNPT核不拡散条約への批准を求めている。日本は当時条約への批准を先送りしていた。「核を持たないことで、永久に国際的ニ流国に置かれるのは屈辱」との考えがあった。日本に核兵器を持つ能力があったのか。

時の政府はこの調査を行った事実がある。志垣民郎元内閣府調査官(当時、調査室主幹)の証言。「当時政府は具体的に核兵器を作る方法を調査していた。この調査は中国の核実験成功を受けて始まった。内閣府は極秘裏に専門家を集め調査を行っていた。濃縮ウランからプルトニウムを製造する方法、核弾頭ロケットの製造、誘導技術等がまとめられた報告書は、楠田實主席首相秘書官に提出された。」

当時は核兵器はタブーとされていた。原子力発電所そのものが強い反対を受けていた時代である。報告書に記載されたプルトニウムの製造方法は極めて具体的な方法だった。(続く)